

1学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

1学年 第50号

2016.1.6 (水) 発行

あけまして おめでとうございます！

文責 横山

というこの文章は、実は年末に書いています。これって「お正月の番組」を12月に撮影している芸能人も同じ気持ちなのだろうな、なんて想像しています。昨日は終業式でした。講堂が工事中のため（耐震のための工事です）私も初めて体育館での儀式でした。案外、これはこれでアリだと思います。席がない分、コンパクトで話し手が身近に感じることができます。校長先生が「寒いので5分で話します」と言って、本当に4分55秒で終了したのは驚きました（時間を計っている私も私？）。話のメインは「タイムマネジメント」でした。

海外の企業で活躍しているある人の話。仕事も一生懸命する。夜中2時の臨時の会議もあるし、海外出張も年に数十回ある。けれど家族や自分の趣味も存分に楽しんでいる。企業はそんな人を求めているし、これからは仕事に全てを捧げるような時代では無い。

これには私も考えさせられました。人の生き方や人生観は、いちばん身近な大人である「両親」の影響が大きいと思われまます。私の父は米沢の電線を作る会社に勤めていました（正にそのままの社名でしたね）。総務という経理の仕事ですが、実のところ社内の調整や外部との接待など何でもやっている部署です。私が幼い頃は始発の汽車（本物の蒸気機関車！）で会社に向かい、帰ってくるのは決まって最終電車でした。あの時代は土曜日でも仕事だったので（学校も土曜は授業でした）休みは日曜しかないのですが、接待ゴルフなどで家にいる父の姿はほとんど記憶にありません。母は理容師ですが、朝は7時前からお客さんが待っており、夜も深夜まで仕事をしていたことを思い出します。また床屋は月曜日が定休日なので、家族みんなで出かけたということも少なかったと思います。そんな生活でしたから、両親が部活動の応援に来たとか学校に車で送ってもらった何てことはありませんし、あの頃はどの家庭も同じような状況でした。ある意味「生きること ≡ 仕事をする」に何の迷いも無い頃でした。イメージが湧かない人は、マンガや映画で「3丁目の夕日」を見るといいかもしれません（諸君のご両親の幼少期も概ねあんな感じだと思います。ぜひ観て下さい）。そんな両親の姿を見て育ったこともあり、今の私もそれに倣うような生き方を「当然」のようにしてきたように思います。また、教員というこの仕事が自身に合っていたのかもしれませんが。おそらく父の総務という仕事が「何でも屋」であったように、教員も「ゴールの無い」仕事であり、そこでは無限の思考と時間を費やすことができるのです。

正直「自分はモノを作る人になればよかった」と思うこともありました。例えば、野菜を作る、工業製品を作る、旅行プランを作成するなど、完成や終了、その成果が目に見える仕事への憧れです。結構私は何事も「わかり易さ」が好きですが、教員は卒業式で終わらない、3年間で完成しない、数学を教えるだけではない仕事です。「教員って何ですか？」と問われると一言では語れません。そういった意味で「極めてわかりにくい仕事」です。別の視点で見ると「だからこそ

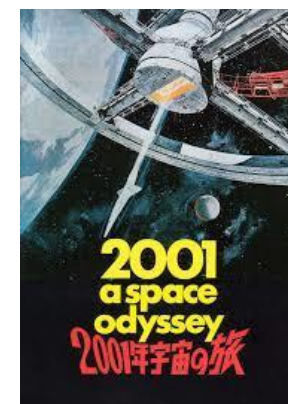
やりがいがある」とも言えますけど。ですから、諸君の中で教員志望の人には（大変嬉しいことですが）そんなことも知っておいてほしいと思います。少し論点がずれました。これからの仕事についてです。まず「少し未来」を予想してみます。

- * ロボット化が進み、現在人間が行っている作業の多くは機械が行うようになる。
- * ネットワーク化が広がり、在宅で仕事や「学習」ができるようになる。
- * バーチャルリアリティ技術の進化で、家に居ながら旅行のような体験ができる。
- * 自動翻訳機が完成し、どんな言語も誰でも聞き話すことができるようになる。
- * ドローン技術で、モノの輸送や人間の移動が地上から空中へと変わる。

ここまで書いて映画「2001年宇宙の旅」を思い出した。この作品は1960年代に各分野のスペシャリストを総動員し未来を予想したと言われている。原作でも映画でもいいのでぜひ体験してほしい（2010年と2061年の各宇宙の旅もあり）。上記の横山予想は10年後の2026年を想定している。諸君が26歳前後で、私は60歳。その頃の世界はどうなっているだろうか。少なくともこの日本においては今以上に少子高齢化がすすみ、人口は減少することだろう。しかし、高齢者増加や人口減少自体は悪でも危機でもない。が、そんな時代に「どのような社会をつくるか」という議論と具体的な政策が必要になる。諸君には、常にそういった視点を持ち考えることを求めたい。つまり、あるがままの社会をあるがままに受け入れるのではなく、自らが「生み作り出す気概と責任」を持って欲しい。

5組には「将来、総理大臣になる」と公言しているH君がいる。非常に頼もしいと思う。一国を背負う覚悟と気概を持っていることを。彼と同じような気持ちで頑張っている高校生が日本に数多くいると思う。しかし、私利私欲では無く「世のために尽くす」という確固たる決意を持つ者にこそ、その重責を任せたい。そういった意味で次代は米興生がリードする世紀になってほしい。年末に天童で行われた県主催の「医学部進学セミナー」に参加した16名もそう。医師は人の命を預かる重責を負う。地域の人口が減少し高齢化がすすむとしても、医療が充実していれば安心して生活することができる。当然、それは信頼できる技術と知識を持った医師であってほしいし何より「人皆の命をあがめる精神の人」であってほしい。この年末年始は私の家族が大変お世話になったからこそ、なおのことそう思う（この辺から年始に書いている）。しかし、諸君には政治家や医師だけでなく、どんな仕事も尊いものだと自覚してほしい。缶コーヒーのCM「世界は誰かの仕事でできている」にはいつも心が揺さぶられる。通学する道路を作ってくれる人、食を供給してくれる農家の人、それを安全に加工・販売してくれる人、電気を作る人、教室を温めてくれる人、笑顔で応援してくれる人 etc. いろんな人が様々な形で関わっていることを忘れてはいけません。それは諸君が将来、世の中をリードする立場で活躍するとすれば尚更のことである。

結びに。未来は職業が第一の時代で無いかもしれない。家族や地域、仕事以外の世界も大切にしていってほしい。しかし「世に尽くす」という精神のもと、全てを仕事に捧げてきた人たちがいたことを知り、その使命のもと世の中に貢献しようとしたとき、それが「第一義」となったとしても、そんな人が世の中に1人位いてもいいとも思う。今年、お互いに大きく成長する1年としましょう。 **終**



1 学年の今年の1文字は？

2015年、昨年の1文字は「夢」でした。学年掲示板に掲げてある色紙は、昨年4月に教育学部書道学科に進学したS. R. さん（理系 卓球部）がこの学年のために書いてくれたものです。ちなみに、3年生の談話コーナーにある「大器晩成」は、同じく書道学科に進学したM. H. さん（理系 バスケットボール部）の作品です。小さい頃から書を学び、1級や2級というレベルでない達人の領域まで到達した2人です。こんな私ですが、小学校4年間「習字」を習いました。が、嫌々やった&本気で取り組まなかったものですから、やはり身につかず・実ることなく悪筆の現在に至ります。ですから、新聞でユーキャンの「ペン字の通信教育」を目にすると、今でも「始めようかな」と思ったりします。ペン字と言えば、私達（達って誰？）は「日ペンの美子ちゃん」です。懐かしく思い調べてみると、何とまだやっていました。右上の美子ちゃんは初代で、現在は左下の5代目美子ちゃんが看板を背負っているようです。本当は5代すべて載



せたかったのですが（美子ちゃんの変遷は、その時代時代の女性美を感じさせる？）興味のある人はHPを見て下さい。作画は、初代 矢吹れいこ先生から5代目 梅村ひろみ先生とこちらも5代目です。昭和47年に誕生し、3代目 J Soul Brothers のように代々受け継がれてきた美子ちゃん、きっと今年大ブレイクの予感です。なんて書いている場合ではなく、テーマは書であり、字の上手さです。この時期にそう思うのは、きっと「年賀状」のせいです。本当に、上手な人は羨ましいです。この文章も含めてほとんどがパソコンの活字で印字する時代ですが、そうだからこそ、筆字やペン字の持つ美しさや美しい字を書く人への畏敬の念は際立つようになりました。私は本当にヘタなのですが、教員としてそうも言っていられないので「時々練習」します。参考までですが、私の母は夜TVを見ながら、新聞広告の裏に思いつく言葉を繰り返し書いていました。私は没入できない講演会（？）などで、講演のレジュメに出てくる言葉や文章を空きスペースに書いています。いずれも、字の練習であり、字を覚えるための行為でもありますから、少し意義ある「時間つぶし」になります。まだまだですが、ホンの僅かずつ上手に書ける文字が増えてきました。

終業式で諸君に「1年生は12月で終了です。新年1月からは2年0学期です。あと、残り700余日の高校生活を精一杯努力しましょう」と話しました。とすれば、学年目標の「1文字」も2学年バージョンにしたいと、この年末年始にいろいろ考えました。優柔不断な私は、1月4日廣瀬タツペイ先生と福原屋でラーメ大盛りを食べながら「どんな文字がイイと思う？」と相談したところ、何と私と同じ「実」を薦めてくれて確信しました。今年の学年目標は「実」です。この文字には様々な意味を見出すことができます。ですから、ここであえて「実とはこうだぞ」という話はしません。この1文字に、諸君の感じた「意味・意義」を各自で考えて決意して下さい。そして、今年の年末に「自分は精一杯努力した365日を過ごした」と学年掲示板に掲げた「実」に自信を持って誇れるような1年を過ごして下さい。ここで「今年は閏年だから366日じゃない？」と思った人は鋭い。そう今年がオリンピックイヤーなので1日多い。ラッキーだ！楽しい時間は長い方がいいに決まっている。精一杯

努力することは苦しいこと・辛いことじゃない。

大晦日も元日も学びに尽くしている現3年生の表情を見ろ。誰もが不安と焦りの気持ちを奥底に持ちながらも、総じて「明るく前向きで元気」だ。いつも話すが、私は3年生が大好きで、諸君にもそうなってほしいと願っている。この「実」は、その3年生のN. N. さん（文系 ホッケー部）に書いてもらった。彼女も書道学科を目指し「学書両道」頑張っている。実に大らかで伸びやかで凜とした素晴らしい書であると思う。本当にありがとう。「夢」から「実」へ。これを上杉鷹山公は「成らぬは人の為さぬなりけり」と言った。私は「やればできるというが、やらないのはできないのと同じ」、砕けた言葉で言うと「明日やろうは馬鹿やろう」だ。いつまでも正月気分 Dreamer ではないけません！ 終

